

# 区民生活支える予算に転換を

予算からカットされたクローバー橋  
脇の鯉のぼり (写真は昨年5月)



## 増税やぐらし・福祉の切り捨てを止めよ



来年度予算を審議する江東区議会が2月22日からはじまりました。同日、日本共産党から今期で引退する鈴木康吉議員(写真上)が代表質問をおこないました。

### 広がる貧困と格差

鈴木議員は、生活保護や就学援助の増加など、区民に貧困と格差が広がっているとし、国や都に定率減税廃止や社会保障の切り捨てをやめよう、「申し入れよ」と迫りました。また、石原知事の不正・乱脈都政を批判し、オリンピックや臨海部予算の撤回を求めるよう要求しました。

この質問に石橋助役は「所得環境は改善している。定率減税廃止はやむなし」「減税は行う考えはない」など答弁。国や都に追従し、区民いじめの冷たい姿勢に終始しました。

### そして政府の増税計画

医師不足で新規受付を中

## 今、国民の出番！ 改憲勢力に「ノー」を —江東母親大会で講演—



経済同友会終身幹事  
国際開発センター会長 品川 正治氏

今年も2月11日、建国記念の日に江東母親大会が総合区民センターで開かれ、午前の全体会では経済同友会終身幹事・国際開発センター会長の品川さんが講演し、150人程の参加者に深い感銘を与えました。

20歳、旧制高校2年生で中国に送られ、擲弾手として戦闘に参加した経験、復員船内で泣きながら読んだ新憲法草案の記憶から話をすすめた品川さんは、「戦争を起こしたのが人間なら、止めるのも人間、私は止める側の人間として生きる。それが政治や経済を考える基本」ときっぱり。

「戦争は勝つことが最高の目的、教育や科学などをふくめ、あらゆるものがそのために動員される」「武器商人や巨大資本が莫大な利益をあげる、アメリカの軍産複合体がその代表」と指摘します。

「日本の政財界やマスコミは日米が価値観を共有しているというが、日本は戦争しない国、世界中に敵がいていつも戦争しているアメリカとはちがう。今の外交では日米関係は変えられないが、アメリカ型国家をめざす改憲に対して、国民がノーといえれば世界史は変わる、国民の出番です」と結び、満場の拍手がいつまでもつづきました。



止においこまれた墨東病院の産科医問題については「都に要請する」とのべま

鈴木議員は、区民の切実な要求をふまえて、認可保育園の増設、出産費用の助成、中学生までの医療費無料化を求めました。

また高齢者のプール使用料無料化、重度介護手当創設、障害者の施設利用料の負担軽減、パートの公務労働者の賃金引上げなど、区民生活を応援する予算編成への転換を求めました。

政務調査費  
領収書義務づけ

また本会議で、共産党が要求していた政務調査費の条例が改正され「領収書添付」が義務付けられました。

日本共産党の代表  
質問を聞いて

私の家はマンションなので鯉のぼりを立てることができません。毎年、子どもの日が近づくと孫と一緒に、クローバー橋脇に飾られる沢山の鯉のぼりをみるのがとても楽しみです。たった二百万円の予算なのに、今年はやらないときました。江東区は700億円もの大金をためているそうです。区民の楽しみやくらしのことを区はもっと親身に考えてほしいと思います。やっぱり年度の選挙で共産党を伸ばすしかないですね。(女性、65歳)

「平和・くらし風土記」に労働者が登場している。東京ガス豊洲工場、精工舎、いずれも労働者が要求を語り共同を広げ、労働組合を民主化するなかで要求を勝ち取っている▼労働者の「貧困と格差の広がり」は、非正規雇用の増大で社会の底辺に膨大な貧困・失業者を急速に累積している。小泉内閣発足後二八七万人もの非正規雇用が増えて全体で一六四七万人、全労働者の三分の一を超えている▼今年の国民春闘方針は、「安心できる雇用と賃金を！」「全国一律最低賃金制度の実現」とあり、連合の春季生活闘争方針も「パートタイム・契約・派遣労働者に対する正社員化の取り組み」「最低限の生活ができる賃金水準の実現」とある▼財界・政府総ぐるみの貧困と格差の押し付けに、労働者が語り合い、共同を広げ要求実現に立ち向う条件は広がっている。国民総ぐるみで戦い、選挙で政治を変えることが要求実現の力であることを、「平和、くらし風土記」は教えている。労働者と労働組合の出番といえる。



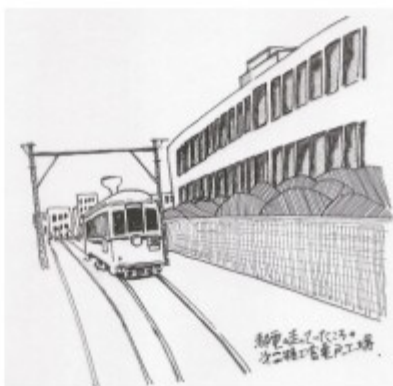
# 平和・くらし風土記 ⑬

## 特定政党支持をはねかえした 第二精工舎の労働者

亀戸駅前「サンストリート」の地に、2000人の労働者が働く“世界の時計セイコー”の第二精工舎がありました。

1964年東京オリンピックを機に、腕時計の生産が拡大し、組立作業工程に8~10人のベルトコンベア方式導入や作業時間をストップウォッチで管理するなど、苛酷な労働となりました。またキズミ（拡大鏡）をかけての細かい部品の組立作業は、頸肩腕障害や心神消耗をとまなう厳しい作業です。「私たちは機械ではない。交替要員を増やせ」など悲痛な声があがってきました。

組合役員選挙では「会社が儲ければ労働条件も向上する」という組合幹部の説得や職制の執拗な反共攻撃にもかかわらず、職場を基礎にして切実な要求を掲げた先進的な労働者に多くの支持がよせられ、組合役員にも選出されるようになりました。



その力で、就業時間外に強要されていた品質向上の話しあいを時間内にさせたのをはじめ、交替要員の増員、労災認定、福利厚生改善など、次々と要求をかちとっていきました。さらに、組合大会では執行部の民社党（当時）一党支持の提案を激論の末、職場代議員の多数をもって否決し、全金同盟傘下の労働組合として当り前であった一党支持を許しませんでした。



# 東京大空襲62周年

## くりかえすな戦争の悲劇を 誓い新たに



増築成った東京大空襲・戦災資料センター

62年目の3月10日がめぐってきました。東京大空襲を語り継ぐ戦災資料センターや、国の戦争責任を問い、謝罪と補償を求める集団訴訟の活動を紹介します。

### 戦災資料センター増築完成

#### 3月1日リニューアルオープン

北砂1丁目の戦災資料センターは開館5周年を迎えます。入館者は4万3千人を越え、修学旅行の時期には、全国から100校余の学生、生徒が見学に訪れます。

平和学習の場として次世代に手渡そうとの訴えに応えた多くの民間募金によって、1月には増築が完成しました。想いのこもった資料が寄せられ、充実した展示コーナーが新設されます。

3月10日には亀戸カメリアホールにおいて「東京大空襲を語り継ぐつどい」が開催され、井上ひさしさん（日本ペンクラブ会長）の講演「日本の空襲」をはじめ、亀戸、東陽町での空襲体験談や子どもたちのとりくみなど、多彩な発表がおこなわれます。

本やビデオで見るとこんなもんだと思うけど、

**戦災資料センターを見学した子どもたちの感想**

こんなことがおきるなんてとんでもないことです。

### 政府は戦争の後始末を

1997年に発足した「空襲犠牲者氏名を記録する会」の要請によって、東京都が公募・記録した氏名は約7万8千名に達し、2001年には780人の犠牲者遺族会が結成されました。

戦争犠牲者に対する戦後補償が軍人、軍属に限られ、民間人は「受忍」の一言であしらわれ、60年余も放置されているのは日本だけです。

昨年10月、100名余の原告と110名の弁護

実際に見るとすごく怖いかなあ、と思いました。もうこんなことは起きないでほしいと思います。 中学一年（原文のまま）

### 3月の行事案内

■8日(木) 18時30分、東京大空襲訴訟を支援する集い、オンラインズホール、錦糸町丸井8階

■10日(土) 13時30分、東京大空襲を語り継ぐつどい、井上ひさし(作家)、500円、亀戸カメリアホール

■13日(火) 9時30分開場、10時開会、三・一三重税反対区民集会と統一申告、総合区民センターホール

連絡先  
〒131-0045 墨田区押上 3-24-13-201  
TEL.FAX (3616)2339  
東京大空襲訴訟原告団

